

第4回  
多可町生涯学習まちづくり委員会

会議録

《概要版》

事務局 多可町生涯学習課

## 第4回多可町生涯学習まちづくり委員会 会議録

- 日時 令和4年11月7日(月) 午後7時30分～午後9時30分
- 場所 アスパル健康福祉センター 研修室
- 出席者
- ・委員 9名/12名(敬称略)  
近藤 文好 遠藤 ひとみ 藤賀 幸子 杉本 真  
蔦木 伸一郎 山本 和樹 後藤 さおり 山本 早希  
石塚 郁
  - ・欠席委員 立岩 一真 小寺 祥之 小林 一光
  - ・事務局 生涯学習課 課長 藤原 徹  
副課長 生田 恵子  
課長補佐 橋本 行広  
教育総務課 図書館長 畑中 俊裕  
建設課 副課長 藤田 賢嗣  
翁田 拓樹、西村光法
- 議事
- (1)次第2 委員プレゼンテーション
  - (2)次第3 ゲストトーク  
テーマ:「新しい図書館の理念」を学ぶ  
講師:遠藤委員(多可町図書館協議会 委員長)
  - (3)次第4 グループ・ディスカッション  
テーマ「チームでの活動について～具体的にどう進めるか～」
  - (4)次第5 その他
    - ・10/25 図書館視察報告
    - ・PR活動
- 会議結果
- (1)次第4. グループにわかれてのディスカッション、発表を行いました。  
→発表内容
    - ・Aグループ  
住民ワークショップに向けてのPR  
利用団体、個人へのヒアリングの実施  
文化連盟やプラザ利用者などに案内資料の提示  
アンケートの実施、資料作成
    - ・Bグループ  
まちづくりプラザのPR  
PRする前に  
委員がまちづくりプラザのイメージをインプット  
まちづくりプラザ内のエリア区分を考える  
本と体験を合わせたイベント開催  
建設予定地周辺の散策
  - (2)次第5. ・図書館視察の報告
    - ・PR活動(たかテレビ、広報紙)
    - ・生涯学習まちづくり委員会研修会(12月2日)

## ■会議の経過

次第 1  (座長)	開会  座長あいさつ
次第 2  (A 委員)	委員プレゼンテーション  <プレゼン A 委員> 皆さんこんばんは。今回は急に来られなくなって大変申しわけございませんでした。たいしたプレゼンというわけでもないんですが、ちょっとご紹介だけできたらなと思って。 皆さん『文化観光』という単語は聞かれたことがありますか。少し図書館とはまた違う分野の話になりますが、令和 2 年に文化庁で『文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律』が新しく制定されて、これまで観光は観光まちづくりっていう単語はよく聞かれると思うんですけど、それを文化に絡め合わせて、新しい文化と観光をいっしょくたにしたまちづくりというか、新しい観光手法を開発していこうということで始まった法律です。簡単に言うと、「文化資源の保存及び活動を行う施設」とか「文化について理解を深めること～」とかいうのと、それを推進する、例えば観光地域づくり法人（DMO）とか観光協会とか旅行会社とか、観光の人たちと文化を守って活用している人たちをつなげて、一緒に文化資源も観光のコンテンツにしていくような動きです。海外では美術館に行かれる方も多いと思いますが、博物館とか美術館に行くとその地域のことが知れたりとか、文化のことがわかったりする。そういったことを観光に結びつけていく。観光でお客さんを呼べるとそこに経済効果が出る。それでちょっと儲かった分を文化の方に再投資をしていくっていうこの循環が『文化観光』と言われているものです。まだ始まったばかりで、あまり浸透はしてないですが、こういった流れを今後作っていこうということで、文化庁で事業のお手伝いをさせてもらうことで、私もすごい勉強する機会になっています。今回は図書館ということで美術館・博物館とはまた違った施設ですが、生涯学習のまちづくりとかもこの委員会の最初のテーマであり、自治体のお金を使わんとそれぞれ収益を得ながら皆で良いとこに出来たらいいよねみたいな話もあったと思うので、この話をさせていただきました。収益をめちゃくちゃあげられなくても、例えば最低限の人件費や施設の改修のために、お金を稼ぐことは何も悪いことではないので、図書館と生涯学習まちづくりという二面性はあるんですけど、こう連携して社会教育施設としてもきちんと自走が出来ていくような上手い仕組みを皆さんで今も考えてるんですけど、今後も引き続き考えていけたらなと思うところで、プレゼンというよりはちょっと紹介です。こういう動きが国で出てきているので、いつか図書館も必要な分を稼いでいくっていうような動きになるんじゃないかなと思います。また、頭の隅っこに入れて、何か協議の時に思い出していただければと思っています。私はこの考えでお話を今後も出来たらなと思っています。ありがとうございました。
次第 3	ゲストトーク

(座長)	<p>それでは次第の3番です。ゲストトーク「新しい図書館の理念」というところで、多可町図書館協議会の委員長様よろしくお願ひいたします。</p>
(B委員)	<p>こんばんは。よろしくお願ひします。それでは皆さんにお配りしている新しい図書館の理念についてというレジュメに沿ってお話していきたいと思ひます。</p> <p>私は実はただのボランティアで、代表になったのも今年が初めてで、こういうところで説明をするということに対して、とても緊張しています。ご質問を後でいただくかもしれないんですけども、きちんと答えられるかどうかちょっと心配しています。</p> <p>それでは皆さん、多可町図書館基本計画の9ページを見ていただくと、新しい多可町図書館の理念～従来の図書館像からの脱皮を～と題して、(1)のところに「新しい図書館は多可町の新しい顔になる」というふうに書いてあります。多可町の顔としての新図書館というところの最後のところには、「図書館が生涯学習のまちである多可町の新しい顔とならなければならない」と書いてあると思ひます。その次の(2)の図書館は4機能を持つ生涯学習の拠点というところに、「従来の図書館は本を借りて読むとか、静かに座って本を読む、おしゃべりしてはいけない、それから本好きの人が行くというような考えが今なお根深くあります。しかし、これからの新しい図書館は、気軽に集う広場、相互に交流する空間、生涯に渡って学び続ける拠点、情報を発信するセンター、町民が読書することで満ち足りて心くつろぐ庭園でもあります」と書いてあります。本を通して人々が共に集い交流し、学びあい、発信し、心くつろぐ場となるような新しい図書館にしていきたいというふうに思っています。そして、10ページに、現在、町内には町民が気軽に立ち寄り、自由に時間を過ごすことの出来る公共の空間がほとんどないというふうにも書いてあります。だから、新しい図書館とプラザがそういう交流の場になるようにということだと思ひます。それから13ページの「理念実現のための図書館」(3)新図書館の特色というところに、1番から8番までこういう図書館を目指しているということが書いてあります。そしてその次の14ページ新しい図書館の機能と役割には、①学びの舞台②情報発信の舞台③ふれあいの舞台④憩いの舞台というふうに書いてありますが、そういう機能・役割を目指しているということです。以上です。新しい図書館の理念について何かご質問とか意見とかありますか。</p>
(A委員)	<p>理念についてご説明いただいております。実際にまだそこまでいっていないかもしれないですけど、今図書館さんの方でされているのは、例えば「それはふれあいの舞台に該当するよね」みたいな事業だとか、逆に「今後こういう事業があったら、それって学びの舞台の事業になるよね」みたいなイメージっておありなんですか。</p>
(B委員)	<p>今現在ですか。</p>
(A委員)	<p>現在もだし、今後も何かイメージというか、こういう想定みたいなのが、もしあったらどんなことを考えられているのかなということです。</p>
(B委員)	<p>具体的にこういうものを想定しているとか、今後こういうことをやりたいとか考えたことはないんですけど、図書館で本を読むことで学ぶっていうのは従来からそ</p>

のままですが、学んだ成果を町内外に発信するって、具体的にどうやったらいいかっていうのは、今後新しい図書館を目指して行くに当たって、サポーターの皆さんとか、図書館サポートネットで考えていく、協議していくということになるのかなと思っています。どういことをしてほしいとかっていう希望はありますか。

(A委員)

逆に、「今の課題がこれだからもっと情報発信しないといけなので」というふうにテーマ設定にされているのかなと。それだったらその課題の部分を、じゃあ皆でどうやって解決していったらいいかなというのを話し合い出来たらなと思った質問だったんです。

(B委員)

1番の課題はやっぱり来館者が少ないということ、年々減っているということと。来館者が少ないということは貸出冊数もちろん少ないですよ。私たちボランティアグループがサポートネットの中にくっつかあるんですけど、私は児童サービスのところで『お話サークルあいあい』というグループなんですけれども、コロナの時期は別として、それ以前小学校とかそれから幼稚園・キッズランド、そういうところにお話会で呼んでいただいていたんですけど、それも回数はどんどん減っていますし、呼んでいただける小学校も町内全域で最初の頃は呼んでいただいていたんですけど、それがもう固定されてしまって、今は数校にしか呼んでいただけてない、行けてないっていうものもあります。それから、お話会って月に2回土曜日の午前中に図書館のお話の部屋でやってるんですけども、それも図書館が始まった頃は町内放送かけていただけて、その時は部屋がいっぱいになるくらい多くの親子で来ていただいていたんですけど、その放送が数年で断ち切られてしまったからは、一応口コミで来てくださいねとか、情報発信は図書館便りとかでもしてるんですけども、ガタッと減りました。10月は私が当番だったんですけど、その時も幼い子は4人、保護者が3人、だけでした。それでも多い方なんです。だから、そういう定期的にやっているイベントに参加してくれる子どもたちも少ないですし、親子で来ていただくっていうのも、本当にリピーターだけっていう感じです。私たちのグループも始まった当初から発足した当初からメンバーは今年1人増えました。その前にも1人増えましたけど、活動できているメンバーは6人しかいません。だからそういう仲間・メンバーを増やすのも、どうやっていったらいいかなというのも悩みです。

(C委員)

町内に放送で案内をしたそれがなくなったのはなぜ。

(B委員)

別に決まっているわけではないんですけど、ずっと私たちは続けてほしかったんですけど、なんか町の方の。

(事務局)

昔、担当をしていたことがあってお答えします。やっぱり放送が多かったら多いでいろいろと苦情が来るんです。ずっとずっとそんな放送してくれるなみたいなことも結構あったりして、イベント告知みたいなことが出来なくなってしまったんです。そういう経緯があって止めさせていただいたことがあったんです。本当にいろんなところでたくさんイベントをするので、それを全部防災無線で放送したら、毎日長い放送をいっぱいしないといけなくなってしまうので。

(B委員)	私たちにはわからない事情がありますね。
(C委員)	違う方法をこれから考えていかないと。
(A委員)	人を増やすのもいっしょに取り組みが上手いこと出来ていったらいいですね。参加者もだし、やる側もね。
(B委員)	他に。
(D委員)	<p>一番はじめの図書館の従来のイメージというところで、静かに本を読むところ、おしゃべりしてはいけないとずっとありまして、今だって暇な高齢者が時間つぶしに行くところやみたいと思ってる方がたくさんあると思います。</p> <p>おしゃべり禁止というようなイメージは、何かしぼりとかがあって図書館はそういうものだというのがどこかで打ち出されたんですか。それとも図書館に来る人の中でそういう意識がずっとできていったんですか。</p>
(B委員)	<p>静かに座って本を読むとか、おしゃべりしてはいけないということですか。</p> <p>それは、図書館の始まりが学習する勉強するところだったからと思うんです。図書館に行ったら一人静かに自分の好きな本を読める、ざわざわした所でなかなか一人でじっくり読むことが出来ないというような人が行くところ、というふうになってたと思うんです。学生が受験勉強をしたり、試験勉強をしたり、今もそうなんですけど、そういうところでやっぱり大きな声でおしゃべりをしたりするというのは迷惑になりますよね。私ははっきりとは知らないんですが、図書館法などに何かあるんですかね。</p>
(E委員)	<p>ちょっと読んだことがあるんですけど、昭和25年に図書館法ができて、さあ図書館を作ろうというのに具体的なやり方がわからなかったんで、日本図書館協会みたいなのが、まずは静かに本を読もうじゃないかということ、勝手にと言ったらおかしいですが、打ち出しちゃったんですね。でも、本来図書館法はサービスが8つほどあって、その中の1つだけが貸出サービスであって、ほかはいろんなサービスがあるんだけど、ほかは全部図書館協会が出した本にはあまり載っていなかったらしくて、まずは本を貸し出し、そして本を読もうじゃないか、貸出サービスで競おうじゃないかみたいな形になったんです。本来の図書館法からはやっぱり外れたような内容だったんじゃないかなというようなことを読んだことがあります。</p>
(D委員)	<p>ありがとうございます。今の合併からこちらの図書館の姿勢というか、館長なり職員の考え方だと思いますけど、やっぱりそういうところで厳しく注意されるようなことはどうだったんですか。</p>
(館長)	<p>図書館の方としましては、特に大きな声で騒いだりというような方に対しては「ちょっと静かにして下さいよ」とか、館内でお菓子を食べたりするような人には「食べないで下さいね」というようなことはご指導させていただきます。子どもさんが普通にちょっと声出される程度だったら厳しく言いませんが、あまりにも度を過</p>

ぎた大声を出したり、ほかのお客様に迷惑をかけたり、横柄に本を読まれていたら、注意をしますが、現在の図書館へ来られている方で、そこまで注意しなければいけないような方は、私が来たときからはまったく見かけておりません。

(D委員)

ありがとうございます。

(B委員)

私たちは、学校へ行く前に、図書館の中で打ち合わせをしたり選書したりするんですね。その時についつい声が大きくなって、かつては「ちょっと静かにして下さい」と言われたことがあります。やっぱりおばちゃんたちって、ついつい話が楽しくなってくるとどンドン声が大きくなってしまっ。でも気を付けるようにはしているんですけど、シーンと静まりかえっているというようなことはないと思います。普通に小声で会話をしたりするのは支障ないと思います。

(F委員)

ご説明いただいて、ありがとうございます。私も図書館に関わらせてもらっていたんですが、こうやって図書館協議会の皆さんが議論されて、こういう図書館基本計画を作られてるっていうのは、多可町の図書館活動というのはやはり活発だなというふうに素直にすごく感想として持ったし、これだけのことを1年ぐらいでまとめられたのは本当にすごいなと思いました。やはり、B委員もされているというボランティアグループの取組みというのはすごく図書館にとっては大事な部分だなと思っているんです。21ページにどんなボランティアをされているというのが書いてあるんですけども、この「サポートネット」には、いくつの団体の人が入っていて、総勢何名くらいの方が活動されているようなグループなんですか。

(館長)

41名です。

(B委員)

実質動いているのはそんなにたくさんいらっしゃらないと思うんですけど。

(F委員)

そのグループとしての取り組みは、この下の整理案内ボランティアとか、ここに書いてあるような内容をされているということですか。

(B委員)

そうです。

(館長)

今は実際、お話会と図書館のイベント事ときのサポートです。館内整理などはそれぞれお仕事を持たれているので、そこまではしていただいていません。新しい図書館になったらしていただけたらなと考えて、今年もボランティア組織の活性化を協議会で考えていますが、なかなか現実的には難しいです。ここにあげている項目に出来るだけ参加していただけたらなと考えております。

(B委員)

図書館サービスの各部門っていうのがあるんですけど、私たちが開館当初サポートネットを発足した当初のボランティアさんっていうのはすごい元気な方ばかりで、すごく積極的に本当に各部門それぞれ定期的に図書館に来られて、いろんなサポートをしてくださってました。ただ、その方たちがそのまま高齢になってしまいました。年齢的に無理っていう方が増えてきて、だんだんそういう形になっているんだと思います。新しい方、若い方の参加を呼び込むことが出来なかった、

私たちが。

(F委員)

ありがとうございます。図書館って歴史的にそういうボランティアさんと関わる、なんていうか関わり代みたいなのがすごく多いなっていうのを、まあ長い歴史を持つてる図書館さんは必ずボランティアさんの支えがあって運営されているので、やはり新しくなっても若い方がこの活動に参加出来るかは別としても、新たな活動みたいなことが出来るそういった環境を作っていければ、また図書館に関わる人が増えていくのかなと感想として持ちました。あともう1点。B委員さんとか館長さんが今感じている範囲でいいんですけど、特にこの人たちが今ちょっと来てないとか、この人たちにもっと来てほしいなみたいなのところはどういうふうにお考えですか。

(館長)

今図書館に来られる方というのは、固定客さんが多いんです。ほとんどリピーターの方。子どもさんもリピーターだしお母さんもリピーターだし、来られる比較的年配の方もリピーターだし、毎日新聞を読みに来られる方がいらっしゃいますが、それもリピーターなんです。

本当に固定客だけになっているので、やはり図書館へ来ていただいて、学んだことを新しい図書館になったらこう発表するような機会を作って、より多くの方に図書館を利用していただけるように、今図書館協議会では、ボランティア組織の活性化を新図書館の開館に向けて協議をしております。

子どもさんもリピーターだし、親御さんもリピーターだし、年配の方もリピーターだし、毎日スーツ着て来られる方もリピーター。だから年間延べ2万人の方が延べ13万冊ほど借りられますが、皆リピーターになるので、その裾野を広げていけたらなとは考えています。

(B委員)

子どもで言えば小学校の高学年、3年生以上。それから中学生・高校生。中学生と高校生に関しては、試験期間はけっこう来られるんですけども、それ以外は中学生・高校生はもちろん部活とかいろいろ忙しいので無理なんです。小学校の高学年の子もほとんど来ません。

(F委員)

ありがとうございます。あと1点だけ。4ページに「本館及び各図書室の現状」というところで、平成27年2015年10月に西脇市にミライエがオープンしたことによって利用者数が減少したんじゃないかというような書き方をされているんですが、その辺りの実感はどうなのかなというところと、やはり新しい図書館とかこの生涯学習まちづくりプラザが出来るにあたってはここを繰り返してかなきゃいけないという行政的なミッションもあるかなとは思いますが、そのへんはどうでしょう。このミライエがオープンする前と後の変化みたいなのところを。

(館長)

細かい数字はつかんでいませんが、ミライエさんがオープンすることによって近いから八千代区の方があちらへ流れる。マックスバリュの向かいの山手に図書館がありましたので、マックスバリュがなくなってから、お買い物ついでに寄るとかが少なくなって、そのへんでちょっと数字までは今言えませんが、やはりお客様の数は減ってます。でもこの2～3年コロナ禍からこっちについては、貸出冊数を10冊から20冊に増やしたりしておりますので、実質のところ、冊数はコロナが始

	<p>まっしてから今の段階では若干増えてきております。昔と比べれば少ないかもしれませんが。</p>
(F委員)	<p>ステイホーム的な影響もあったりとか、先ほどもおっしゃったりピーターの方がけっこうたくさん借りに来られているということですね。ありがとうございます。</p>
(B委員)	<p>コロナの間2年ミライエに行けなかったんですけど、この10月から久しぶりにミライエの講座に通ってるんですけど、久しぶりに行ったらすごく良くなっています。びっくりするくらいポップな飾り付けとか、いろんな小物なんかも利用者さんが作ったり、それから司書とかの職員がみんなで頑張るとっても可愛く飾り付けしてあって、それはみんなここへ行くよなって思いました。そんな感じです。で、やっぱりマックスバリュがなくなったのは大きいです。私も図書館へ行って帰りにマックスバリュで買い物して帰るっていうルートだったんですけど、それがなくなって、めっちゃ不便です。</p>
(座長)	<p>2番からの説明は今からされるんですよ。私が最後に質問ということで、委員長さんに質問するよりも町立なので図書館長さんにお答えいただいたらと思うんですが、今回新しく出来るのは、生涯学習まちづくりプラザの中に新しく多可町立図書館が出来ます。生涯学習まちづくりプラザというものを例えばミライエとかで運営的に考えると、例えば開館時間的に朝の10時から夜の10時まで開いてるのかな。で、週に1回お休みなのかなというみたいな感じなんですよ。イメージが。今の多可町図書館さんは朝の10時から夕方6時ですね。で、週に月火2回休みですよ。町立ですからもちろん職員の人数の問題が大きく関わってくると思うんですけど、生涯学習まちづくりプラザの開館閉館時間とか定休日なんかが今後決まってくると、それに合わせた中で図書館の開館閉館とか休館日なんかの検討もしていただけることがあるのでしょうか。</p>
(館長)	<p>そうですね。それもまだ教育総務課で検討しますが、図書館につきましてはまだ現段階では検討に入っていません。館長としては、今すぐにでも検討したい。出来る前にね。そのことが極端に言ったら設計にも反映させてほしいとこが出てくるように現場としては思うので、だから出来てから検討するんじゃないし、今の段階で現場としては検討しておきたいと考えているんですけど。当然、今ミライエさんだったら9時30分から19時まで開館されているのかな。それに対してパートタイムさんもいれて職員約15人でまわしておられるんです。そのかわりミライエさんはお休みいうのは・・・、ちょっと忘れちゃったけど。多可町図書館は週休2日で10時から。実際はみんな10時からといいながら9時ぐらいに出勤して、段取りしていますけど、やっぱり本を貸し出すためには、選書したり、準備したり、新聞そろえたりしていたら、かなり開館よりも早く行って準備が必要です。そういうこともあるので、今から考えておかなければならないかなと思っています。</p>
(座長)	<p>よろしくお願ひします。 それでは委員長2番目からの説明をお願いします。</p>
(B委員)	<p>2番の新しい図書館に求めるものっていうのは個人的な意見です。先ほども言わ</p>

れましたように今多可町図書館というのは、職員の数が本当に少ないのでフル回転で頑張ってもらってるんですけど、図書館で働く職員がいきいきと気持ちよく仕事が出来るといい職場であってほしい。そうでないと図書館に集う人々に居心地の良い場所とはならないと思うんです。「図書館は人である」というのを滝野図書館の初代の館長さんに言われたんですけど、そこで働く人々やそこに集まる人々によって図書館は図書館として育っていくものであると。そのためにも正職員の司書を増やしていただきたいと、これは役場をお願いしたいと思います。18ページを見ていただいたらわかるんですけど、職員の数は本当はこれくらい必要なんですよと書いてあるんですね。全然足りないんです、今の段階では。

それから、図書館の運営については町の直営でお願いしたいと思っています。公共の図書館ということであれば指定管理はそぐわないと私は思っています。あらゆる世代にとって図書館やプラザっていうのは、一日中気兼ねなく過ごせる心地よい場所になってほしいと思っています。特に私たちのようなシニア世代にとっては、図書館への町バスの運用は本当にお願いしたいんです。

周辺にはカフェとかコンビニ、パン屋さんがあったらとっても便利で助かります。ミライエには館内に飲食のスペースがあって、しかもパンとかコーヒーなんかの販売をしているところがあります。よその図書館へ見学に行った時に、館内の隅の方に喫茶スペースみたいなものがあったんですけど、とても狭くて隅に追いやられていて暗くかった。できれば私は、今回の新しく出来るプラザと図書館の建物の中ではなくて、その周りにほしいんです。すぐ隣にこういうカフェとかコンビニがあったら便利だなというふうに思っています。

私にとっては本はかけがえのない友達。図書館は魂の癒やされる場所。これは古代のアレクサンドリア図書館のホールに掲げられている文言なんですけれど、図書館は魂を治癒せし場所とかいうふうに書いてあるそうです。図書館は私にとっては学ぶところではもちろんあるんですけど、友達に出会うのと同じように本との出会いやふれあいを楽しむ場所で、図書館にただで幸せを感じられる場所なんです。だから図書館や本に関わるたくさんの人々と本の楽しみを通して喜びを分かち合いたい。私たちお話サークルあいあいが一番望んでいるのが、この本の楽しみを通して喜びを分かち合いたい。それは子どもも大人もいろんな年代を問わずそういうことを願っています。これは私が尊敬するストーリーテラーで翻訳家でもあるおおつきりこ先生。翻訳名はまさきりこさんというお名前です。こどもの本で「もりのなか」というエッツの本があるんですけど、そういう児童書をたくさん翻訳されています。で、図書館やプラザの建物は建ちました。だけどそれで終わりではなくて、本当のスタートはそこからだと思うんですね。図書館やプラザにとっては住民の協力なくしては立ち行かなくなると思うんです。先ほどから皆さんも言っているように、サポーターの力がとっても大きくなってくると思うんです。たくさんの方々に来ていただけるような図書館やプラザになってほしいと私は切に願っています。

その裏にある雑誌の記事から抜粋してちょっと書いてるんですけど、裏を見ていただいたら、内田樹という方の文章があるんですけども、私この人の文章で全面的に賛成するわけではないんですけど、この方が、「私自身図書館の思い出は人気のない書架の間をコツコツと靴音をたてながら長時間、長い時間歩いていたことである。で中略。私はここに蓄積された人類の知のほとんどを知らぬままに死ぬのだ。読みたい本がこんなにあるという喜び以上に、読むことなく生涯を終える本がこん

なにあるという己の知見の狭さについて痛切な自覚をした」って、私これと同じ経験を若いとき初めて図書館の中に入ったとき、こんなに本があって私は一生かかっても読むことが出来ないなって、本当にこの人と同じように感じたことがあるんです。最後に書いてあるように「図書館は人々の『学び』への欲望に点火する学びたいという欲望を触発するものである」と思うんですけども、その図書館という聖域には市場原理や政治による利用を決して介入させてはならない。だから図書館には経済効果はあまり望めないかもしれないんですけども、やっぱり多可町にとっては絶対に必要なものであるっていうふうに私は思っています。

(座長)

ありがとうございました。最後に何かまだ質問がある方は挙手いただけたら。

(F委員)

ありがとうございます。新しい図書館に求めるものっていうのは私もほぼ同じ思いです。3点目に書いてあったやっぱり図書館っていうのはプラザもそうですけど、一日気兼ねなく過ごせる場所っていうのはとても大事なことだっていうのは思います。交通のアクセスももちろんなんですが、やはりカフェやコンビニ、パン屋さんみたいなものもあったら私だったら行ってみたいと思います。先月私も鳥取県南部町という人口1万人ちょっとくらいの町に行った時に、図書館と生涯学習施設を併設された施設を2021年にオープンさせたんですけど、その複合施設は中にパン屋さんとかカフェを事業者さんをお願いして運営してもらってました。パン屋さんは障がい者の作業所の方がされているということで、また小学校のすぐ隣にあるということで、スクールバスの乗り降りの場がちょうどその施設の目の前にあって、毎朝子ども達はその施設の中を歩いて小学校に通ったりとか、昼休みは本を読みにたくさん来るみたいなどころでした。我々は日曜日に行ったんですけど、地元の中学生、高校生みたいな子達がフリースペースで勉強していたりとか、あと人をダメにするクッションみたいなものを置いてある場所があって、そこでゆったりリラックスしながら過ごすみたいなの、けっこう自由に使えるスペースが多くて、居心地の良い空間になっていました。人口1万人ちょっとの場所でも出来ているので、おそらく多可町でも出来るんじゃないかと思って。私の感想です。

(B委員)

ただその建物の中にカフェとかパン屋さんとか入れようと思ったらちやちなものになってしまったらそれは残念だなというふうに私は思っているんで、それならその周りに作ってほしいんです。

(F委員)

館長もおっしゃったように、これから運営の中身を議論されていく中で、必要だということを強く伝えていくことによって、町が動かないとなかなか誘致は難しいと思います。私も是非入れてほしいと思うのでよろしくお願いします。

(C委員)

私はカフェとかそういうのがあから図書館へ来るっていうのは、僕の考えとしたらちょっと本末転倒。図書館に人が集まるからその周りにカフェが出来るとか、あそこ行ったら商売が儲かるなっていうような意欲を持った人が集まっていく。そういう核になるものが図書館であり、まちづくりプラザというふうに考えるべきではないのかなと私は思っています。だから完成形がそうなるっていうことで

(B委員)

だから私が最後に書きました、周辺にカフェやコンビニ、パン屋さんがあれば更

に快適である。出来るかどうかはわかりません。

(C委員)

出来るような空間というか場所にしていくってことを目標にしたらいいいことですよ。最近図書館に行けてなくてあれなんですけど、私にとって図書館は本当に救ってもらったなって思っている、感謝をしている場所です。当初行き始めた頃って祝日休みで休みの日、行けども行けども開いてない。それが開くようになって、休みの日はほとんど開けていただいている、非常に使い勝手が良くなって、私は多可町の中で1番好きな場所だと言ってるんですけど、その中で私は本を読むだけではなくて、お母さんが小さな子どもを連れていらっしゃるという光景を見ることが多いんですね。その子ども達の表情っていうのが非常に良いんです。いきいきしてると思います。別に本を見てるといより、本の間を歩いている姿というかそういうのって非常に原動力というか良いというか元気をもらおうというか、それも図書館に行く楽しみの一つになってるかなというふうに思っています。お母さんがたしなめながら言われてる。良いなって思います。図書館に来てふさぎ込んで暗い表情の子ども達はいないかなというふうに思いますので、きっとどんな子どもも図書館に来ると、たぶんなんかこうワクワクするっていうか、私本に囲まれているだけで読まないんですけど、なんかワクワクするようなところはありますので、やっぱりそういうものって根源的に人間が持っているんじゃないのかなという感じがしています。是非そういう図書館であってほしいなというふうに思います。

(B委員)

これまでいろんな先生に教えていただいて、どの先生も子どもはみんな本好きですとおっしゃるんですね。みんなかどうかはわからないんですけど。基本やっぱり子ども達って本が好きだなんていうのは私も感じます。図書館だけではなかなかイベントとか楽しいことって出来ないと思うんですけど、今度はプラザが出来るからプラザと一緒に楽しいワクワクするようなことをたくさんしてほしいな、したいなと私も思っています。今度図書館で12月17日に「ウォルドルフ人形づくり」に足立ご夫妻に来ていただきます。御主人は絵を描かれます。奥さんが、シュタイナー教育の人形であるウォルドルフ人形を教えていただける先生です。とっても楽しいイベントになると思いますので是非来て下さい。12月17日1時半からです。人形作りは苦手だという方も、足立宗男先生の「遊びは力」という講演がありますので、それだけでも聞いていただけたらなと思います。この足立先生というのは私が西脇高校に通っているときに体育を教えていただいた先生なんです実は。それだけじゃなくて、糖尿病と運動の研究をされて医学博士にもなられて、大学で講義をされたりしていた方なんですけれども、仕事を終えられてからは自宅を開放して、子ども達と一緒におもちゃたちと遊ぶ『てくてく工房』っていうところを主催されていたんです。いろんなことをされてる先生です。以前に海外に行かれた時には、スペインあたりで道の絵を描きながら旅して、いろんなところでいろんな人と交流をしたり、今は海外に行けないので、軽トラに機材や日用品を積んで日本中をまわって絵を描いていらっしゃるんです。絵もとっても上手です。そういう方なので是非来て下さい。よろしくお祈いします。

(座長)

委員長、本当にありがとうございました。皆さん拍手のほうよろしくお祈いします。

事務局の方、チラシのほうを帰るまでに配っていただきますようお願いいたします。

<p>次第4</p> <p>(座長)</p> <p>(C委員)</p> <p>(座長)</p> <p>(F委員)</p>	<p>チームでの活動について</p> <p>この後チームでの活動ということで、前々回からやってます自分達で生涯学習まちづくりプラザに対して何かしましょうということで、利用者の意見を聞くとかPR・マーケティング等の話が出てました。これをさらに具体化して行って、机上で終わるのではなしにさらに前に進めて行ってという形をとりたいと思います。</p> <p>今8時30分くらいですから9時過ぎまで30分か40分時間をとりますので、各チームに分かれていただいて、中で議論を深めてさらにもう一步前進して実践するところまでお話をしたいと思います。事務局の方も欠席もありますので、ぜひ中に入っていていただいて議論に参加していただけたらと思います。ではよろしくお願ひします。</p> <p>(Aグループの発表の最初の部分が録音できていなかった。その部分の要約)</p> <p>住民ワークショップに向けてPRとして、現在、公共施設を利用されている方の意見を聞いてはどうか。具体的には、12月中旬、文化連盟、プラザ利用者等に案内を送り、まちづくりプラザの資料を提示した上で、アンケートの実施や案内資料の作成をする。</p> <p>(ここから録音)</p> <p>あとなんせ最近ちょっとあまりまちづくりプラザについてちょっと熱さが出てしまっているかなというふうなところを懸念する意見もありまして、そういう1月にイベントがあるのであれば、それに向けて何らかの活動をしていきたい、起こしていくべきだとそういうお話になりました。</p> <p>ありがとうございました。それではBグループ、F委員さんグループのほうよろしくお願ひします。</p> <p>前回少し参加者が少なかったということもあって、我々はどちらかというところ、もう少し生涯学習まちづくりプラザの委員会としてどんなことをしたいかということを通して深めていきました。住民へのPRというのが書かれているんですが、それにとらわれずもう一度少し話を深めさせていただきました。やはり生涯学習まちづくりプラザをPRするとなった場合においては、やっぱり我々委員自体がもう少し生涯学習まちづくりプラザというものをイメージできないとやはり説明は出来ないなという話が出たりとか、もう少しインプットが必要かなという話が出てきました。図書館についても今日お話をうかがったので、やはり本を読む人以外でも気軽に利用できるような施設になったらいいねっていう話であったり、カフェとかヨギボーとか、ときには寝転んでもいいよみたいな、そんな施設があったらいいねとか、あとは利用者としてはフロア全体が話してもいいスペースだったらいいなと思いつつも、やっぱりどうしても既存の図書館のイメージだったり雰囲気みたいなものを皆さん持ってしまうので、ここは話してもいいよっていうスペースだったり、逆にここは静かに利用できるよねっていうエリア分けがされてたらいいねみたいな話をちょっとしました。</p>
--	--

じゃあ我々何をするんだろうという話にもう一度立ち戻って話をしたのは、やはりこの新しい図書館や、新しい生涯学習施設生涯学習まちづくりプラザが出来るってことをやっぱり皆さんに知っていただきたいってもちろんそう思っているんです。そのためにはやっぱり出来た後にこういった体験が出来るんだよとか、こんなふうになるんだよみたいなのをちょっと何かプチ体験出来るような場を作っていけたらいいよねっていう話をしました。例えば生涯学習まちづくりプラザでこれから多分いろんな講座だったりイベントをされると思うんですけど、イベントをちょっと小さい規模で体験的にやってみたり、プラスそこに図書館の本を持ってきて本と一緒に紹介してもらったり、時には図書館の職員さんやボランティアさんのお力を借りて読み聞かせをした後に体験をするとか、お話が出たのは、例えば明日とか月食があるのかな、そういう何か天体ショーがあるとか、普段のきれいな星が見えるときでもいいんですけど、星空観察の前に本の読み聞かせをしてもらって、星に関するとか夜空に関する本を貸してもらって、じゃあその後に実際の夜空を見上げてみましょうみたいな形で、何か図書館と関わるような場とか体験みたいなものを出来たらいいな。あとは森の中に本を持って行って自由に本を読めたらいいよねとか、だから何か図書館が変わっていくよねとか、生涯学習まちづくりプラザが出来るんだねみたいな期待が持てるような場をつくりたいねという話が出ました。講座に関してもやはりニーズの把握がまだまだ足りないねという話が出てきて、今は生涯学習課がされている講座、長期的なものが多いんですかね。年間通して学ぶみたいなよりは短期だったり単発。季節に合わせた、例えばおせち料理の教室みたいなそういうのもあったらいいねということで、多分町民の方のニーズってすごい多種多様なんですけど、そういった小さなこんなのをやってみたいなに応えられるような講座づくりみたいなのをしていきたいねっていう中で、例えばこれ3年くらい前なんですかね、多可町でまちスクールっていう商工会さんが企画した町の事業者さんが講師になって、それぞれの事業をされている中から1日完結のワークショップとか体験講座みたいなのをやったらしいんです。ちょっとコロナの影響でここ数年はやってないんですが、やっぱり多可町全体がそういう学び合ったり体験が出来る場所だよっていうのを知ってもらうために、このまちスクールみたいなものをちょっと我々の方でもう1回復活できないかなみたいな話をしたんです。あとそういう学びの場だと少人数でも出来たりとか、先生にとってもメリットが、もちろん参加費という金銭的なメリットもそうですが、事業を知ってもらう機会にもなるということで、まちの活性化とかまちづくりにつながる部分かなと思って、こういう場を委員でつくってみたいなという話が出ました。具体的に何をしようかということなんですけど、まずはまちスクールを以前されていた商工会の主催者の方に1回取材というかお話を聞いて、その時やってみてどうでしたかとか、課題はありましたかとか、今後やる予定はありますかとか、我々としても生涯学習まちづくりプラザというのができるので何か一緒に出来ませんかという話をしようという話になりました。もう一つはインプットの部分でやっぱりもっと多可町のことを知る必要があるなっていう話の中で、まずはこのまちづくりプラザの周辺を歩いてみよう。このあたりに何があって、どんな人が暮らしていてどんな人の動きがあるのかとか、ここに施設が来たらどんな人がこう立ち寄ってくれるかなと想像しながら歩いてみようかなっていう話が出ました。

(座長)

ありがとうございました。

	<p>A、Bチームともいろいろとご無理なことばかりお願いしますが、是非自らで作るプラザの建物です。実践実行でよろしくお願いを申し上げたいと思います。</p>
<p>次第5</p> <p>(座長)</p> <p>(事務局)</p>	<p>その他</p> <p>ここからは事務局のほうで説明をお願いします。</p> <p>10月25日図書館協議会の視察に一緒に行かせていただきました。平日昼間でしたので、なかなか委員さんご参加いただけませんでしたので、ちょっと簡単に報告だけさせていただきます。</p> <p>まず、神戸市立三宮図書館に行かせていただきました。三宮の再開発で前までは駅前の勤労福祉会館の方にあったそうなんですけど、再開発の関係でもうちょっと南の海側に移転されてます。デザインクリエイティブセンター神戸というとてもおしゃれなビルの中に入られてます。令和4年7月26日にオープンされたということです。蔵書はその建物の構造の関係で7万冊。子ども用の児童書が2万と大人用5万ということでした。それ以上が建物の関係で置けないということで7万ということです。入っていきなりが黄色い球体のあるところが子どもさんの児童書が置いてあるあたりで、左下の方は新書なんか置いてあったんですけど、中側がくり抜いたみたいな感じになっていて、そこに入って皆さん本を読んだりとか、区切られてるようなところで2人ほど座れるところがあるんですけど、あと一人一人の机なんかも置いてあったり、リビングコーナーというような本当に家のリビングのような空間もあったり、この右側の写真のほうはニッチといって壁を彫り込んだ座席で自分だけの読書スペースというのが確保できるようなところになってました。とっても素敵なおところだったんですけど、これ5年間だけの仮住まいということで、5年間だけのためにこんないいのが出来るんだというような、さすが神戸市というような建物になってました。また、駅前の再開発でツインビルが出来たときにはそっちに移転されるということで、これを残していくかどうかは今からの検討ですと言われてました。以前、駅前にあったときは、貸し借りがメイン。ネットで予約が出来るそうなので、借りたい本というのをネットで予約しておいて、夕方とかに取りに来る人がすごく多い。その対応がほとんどみたいな図書館だったそうなんですけども、移転したことで滞在する図書館。一人一人の滞在時間がとても長くなりましたというふうに言われていました。毎週月曜日が休館で、開館時間10時から21時ということで、スタッフは17名。運営のほうは株式会社図書館流通センターというところがされてました。余談ですがここがとってもおしゃれなおところなので、トイレのマークがおしゃれすぎて分からなくて、私も入る前だしぶ前で迷ったんです。そんな話をほかの方もされていたので、入って見たら男子トイレでしたとか、入ってたら男の人が入って来られましたとか言われてたので、やっぱりそこは分かりやすいほうがいいのかなという感想を持ちました。</p> <p>もう1カ所が『こどもの本の森 神戸』という今有名なおところかもしれません。建築家の安藤忠雄さんが建築されて、それを神戸市に寄付されたっていうすごいですねっていう建物です。市役所の横の東遊園地のところに今年の3月にオープンしています。森を探索するようにお気に入りの絵本を見つけてほしいという、子どものための施設というふうになっています。前には青リンゴ。安藤さんの象徴です。青リンゴのデザインのオブジェが置かれています。壁一杯に絵本がディスプレイさ</p>

れていて、絵本ってアートなんだなって思えるような、本当に絵本の森っていうような建物でした。現在はコロナ対策で予約制、予約しないと入れないというようなことになってます。ここの図書館は貸出が出来ないんですね。貸出に関しては市立図書館とかそっちのほうを案内してますというふうに言われていたので、本当にここで本を読んで滞在するみたいなことをメインにつくられているところなのかなと思いました。ここはどういう施設なんですかね。休憩場所って言われたと思うんですけど、筒型の上が空洞で空が見えるような感じになっていて、一応雨が入らないようにガラスはあるんですけど、すごく声が共鳴して、すごいなって感じ。ここで休憩が出来るかどうかはまた別かもしれませんが、面白いところがあるなというように、本当に高いところまで絵本があって、この入れ替えどうされるんですかって尋ねたら、まだ新しいからしてませんって言われたんですけど、高所作業車とか出してきて入れるときは入れましたと言われてましたので、なかなか多可町図書館になって言ったらちょっと現実的ではないかもしれないですが、こういうディスプレイもあるんだというのが良かったかなと思います。運営も先ほどと同じく株式会社図書館流通センターです。開館は9時半から17時までで、月曜日休館というふうになってました。

あと次第のほうでPR活動についてですけども、ちょっとずつ始めてまして、たかTVのほうで『あったかインフォ』っていう番組があって、いろんな団体とかいろいろなお知らせをしている番組があるんですけども、その一つにまちプラ通信というのを11月から入れるようにしています。今回は座長に出させていただいて2分くらいでまちプラの活動をPRしていただいています。放送日が11月15日火曜日の午後5時から17日の木曜日の午後5時までになってますので、またご覧下さい。またこういったところに委員さん交代でちょっとしゃべっていただくみたいなことも出来たらいいかなというふうに思ってますので、またご協力お願いします。それから広報でもまちプラのPRが出来たらいいなと思っていて、広報担当に確認しましたら、一番近いところで令和5年5月号が空いてるということですので、一応そこを押さえています。そこでまちプラのPRとその辺りでまた委員さんには出演というかご協力をいただきたいなと思ってますので、またよろしくをお願いします。

後は次回12月の予定です。岡本真さんという方にお越しいただいて、図書館とまちづくりプラザの運営、こういう検討をどういうふうに進めていったらいいかというような検討会をしたいと思っています。それがまた金曜日、平日の昼間で、ちょっと講師さんの都合で申しわけないんですが、12月2日金曜日の16時から18時ということで日程調整させていただいています。場所は中プラザになっています。ちょっと出にくいかなと思うんですが、なるべく多くの方ご参加いただけたらと思っています。またあらためてご連絡はさせていただきますので、よろしくをお願いします。

この次第には入れてませんが、ちょっと話に出ましたが、1月に基本設計の関係で住民ワークショップをしたいなと思っておりますので、そこもまだ今ちょっと調整中ですので詳しく決まりましたら連絡をさせていただきますので、委員さんもお参加をお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

(F委員)

すいません帰る前にごめんなさい。1つ戻るんですけど、チームでの活動についてなんですけど、毎月1回の委員会の中で協議していくことはするんですけど、具体

的にグループでやろうと思うと連絡手段みたいなのをどうしたらいいのかとすごく困っているのと、先ほどPRするための何か資料を作られる、これはグループで作られるってということ、事務局で何か素材があったりする。

(座長)                   とりあえず原案は私が考えて、全員で意見を出し合って直して行って、最終的に作りあげるといふ形。

(F委員)                   PRに関してはこちらも必要になってくるようなものなのかなと思うのと、どちらのグループでも一緒にやっていけたらなと思ったので。ちなみに今なら何だったら使っていていいんですかね。事務局としてはPRしようと思ったら、説明しようと思ったら。基本計画にあるようなものは抜粋してもいいし、何かホームページにこういうの出してますみたいなあったりするんですか、この生涯学習まちづくりプラザが出来るみたいなので。何か1枚ペラくらいで分かるようなものとか。

(事務局)                   すみません。ちょっとまだ作れてないです。もうちょっと建物のイメージとか外観とかあればまたちょっとイメージもつくかなと思うんですけど、ちょっとまだそういうのが作れてないので、でき次第作りたいたいとは思いますが。

(F委員)                   パワーポイントで1枚とかでもかまわないので、何か。何かと言ってもちょっとイメージしにくいかもしれないですけど。

(事務局)                   こういう場面で使いたいみたいのまたそれに合わせて作ることは、はい。

(F委員)                   町民の方に生涯学習まちづくりプラザの機能やコンセプトみたいなのを1枚で伝えたいってということになります、またちょっと検討してもらえたら。

(事務局)                   わかりました。もし何日にどこ行くみたいなのがあったら、それまでには必ずつくるようにします。

(A委員)                   チラシ自体をどんなデザインとまでは言わないけど、ワードとかでつくったものじゃなくて、もうちょっと私たちがどんなチラシを作るのかみたいのところも、みんな考えていったらいいのかなと。

(事務局)                   是非ともそこはお願いしたいです。

(A委員)                   図書館協議会の皆さんの図書館としての思いもあるし、私たちとしてもこんな使い方を例えば提案しますみたいな。ただ、やるかわかりませんという補足もいれておいて。

(座長)                   それこそそれがいいと思います。私らのチームはどちらかというと図書館好きが集まっているので、図書館を核とした中での団体さんが集えるプラザというものをイメージしたチラシに私の頭の中では出来上がっている。ですから、今度そちらはまた別の形のチラシを自分らでつくる。考えてつくる。それがまた一つのこの委員会の中での動きでいいと思います。

<p>(A 委員)</p> <p>(座長)</p> <p>(F 委員)</p> <p>(座長)</p> <p>(F 委員)</p>	<p>そうですね。そこにご意見募集とか、今回やりたいことがあったら気軽に言ってねみたいな文言も入れておいたら、それこそちょっと情報の集約とかにもなったりするのかなと思ったんで。</p> <p>是非お願いします。</p> <p>連絡手段ってどうしたらいいですかね。</p> <p>連絡は各グループで携帯電話を聞くなり、案内できるようにしてください。各グループにまかせます。</p> <p>わかりました。</p>
<p>次第 6</p> <p>(副座長)</p>	<p>閉会</p> <p>副座長あいさつ</p>